

プロロジス、茨城県古河市において BTS 型物流施設「プロロジスパーク古河 5」の 起工式を挙行



「プロロジスパーク古河 5」完成予想図

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(日本本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役会長 兼 CEO:山田 御酒)は、茨城県古河市において、既存顧客の専用(BTS 型)物流施設「プロロジスパーク古河 5」の起工式を執り行ったことを発表しました。

起工式には、入居企業の関係者の方々、設計および施工を担う清水建設株式会社 代表取締役副社長 営業総本部長 藤村 広志 氏をはじめ関係者の方々、プロロジスからは、代表取締役会長 兼 CEO 山田 御酒らが参列し、工事の無事と事業の発展を祈願しました。

■ 「プロロジスパーク古河 5」 開発地: 「関東ど真ん中」に立地し、東日本広域配送に最適な立地

「プロロジスパーク古河 5」は、物流施設が集積するロジスティクスパークとして開発中の「プロロジス古河プロジェクト フェーズ 2」の敷地内に開発されます。

開発地は、関東地方のほぼ中央に位置する北利根工業団地内に立地し、国道・高速道路を利用して、東西南北の主要都市・港・空港まで約 1 時間で到達可能です。圏央道「五霞 IC」および「境古河 IC」からは約 10 分で、圏央道から接続する東名・中央・関越・東北・常磐・東関東自動車道も利用しやすく、関東全域のみならず、東北方面や関西方面へのアクセスもスムーズです。

(次頁へ続く)

また、東北道と並走する国道 4 号のバイパスとして整備されている新 4 号国道にも約 3 分と至近。新 4 号国道は、古河エリアから国道 16 号に接続する「庄和 IC」までの全区間が片道 4 車線以上に整備され、都心部方面へのアクセス利便性にも優れています。

さらに、自動車 30 分圏内には JR 宇都宮線沿線の住宅地があり、北は栃木県小山市までカバーされ 60 万人超の人口を擁しており、雇用にも有利な地域だと言えます。

■ 「プロロジスパーク古河 5」計画概要

「プロロジスパーク古河 5」は、約 32,000 m²の敷地に地上 4 階建て、延床面積約 50,000 m²の専用(BTS 型)物流施設として開発されます。免震構造を採用する計画で、入居企業の事業継続性に寄与します。

また、2 階へのスロープを設け、45 フィートコンテナセミトレーラーが直接アクセス可能な計画とします。トラックバースは 1・2 階あわせて約 50 台分、トラック待機場は約 40 台分を整備し、そのほか敷地内に乗用車駐車場約 120 台を整備する計画です。

さらに、環境負荷低減の一環として屋根面には自家消費型太陽光パネルを設置し、余剰電力が生じた場合は「プロロジス古河プロジェクト フェーズ 2」各施設への電力供給、および他の施設への自己託送によるグリーン電力供給の実施を検討しています。また、LED 照明ならびにセンサー付き LED 照明の採用に加えて、施設の消費電力や水の使用量をリアルタイムでモニタリングできる「プロロジススマートボックス」を導入予定です。同システムは、気温・湿度・雨量・風速・地震などの気象・環境データも取得可能であり、データの活用・分析により、施設運営をサポートします。

これらの取り組みにより、「プロロジスパーク古河 5」は、CASBEE(建築環境総合性能評価システム) A ランク、および BELS(建築物省エネルギー性能表示制度)の最高位 5 スターを取得予定であるとともに、ネット・ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)認証を取得予定です。

「プロロジスパーク古河 5」計画概要

名 称	プロロジスパーク古河 5
開 発 地	茨城県古河市
敷 地 面 積	約 32,000 m ² (約 9,700 坪)
計 画 延 床 面 積	約 50,000 m ² (約 15,200 坪)
構 造	地上 4 階建て、PC 造(免震構造)
着 工	2023 年 1 月
竣 工 予 定	2024 年 4 月

■ 「プロロジス古河プロジェクト フェーズ 2」について

総敷地面積 177,000 m²の「プロロジス古河プロジェクト フェーズ 2」は、2023 年 3 月に竣工予定のマルチテナント型物流施設「プロロジスパーク古河 4」と、本日起工式を挙行了した BTS 型物流施設「プロロジスパーク古河 5」に加えて、2 棟の BTS 型物流施設の開発を計画しており、引き続き入居企業を募集しています。

「プロロジス古河プロジェクト フェーズ 2」は、さまざまな用途で利用できるマルチパーパス型ロジスティクスパークとして開発を進めており、「プロロジス古河プロジェクト フェーズ 2」の各施設へ送電するための特別高圧電力を受電する計画です。これにより、冷凍冷蔵倉庫、工場用途、大規模なマテハンや自動倉庫の導入、館内全域への空調設備など、大量の電気を使用する用途にも対応可能となります。また、工業用水や中圧ガスなど、その他インフラも充実しています。



「プロロジス古河プロジェクト フェーズ 2」開発エリア完成イメージ

本プロジェクトの第一棟目として竣工するマルチテナント施設「プロロジスパーク古河 4」は、ワンフロア最大約 9,000 坪(約 30,000 平方メートル)の倉庫スペースを提供でき、高密度の自動倉庫システムや最先端のピッキングシステムなど、多様な自動化システム導入にも柔軟に対応可能な最先端の物流施設となります。2 階に直接アクセスできるスロープを南北 2 か所に設け、1・2 階は両面バースを備える。2・3 階は、保管効率を重視したメゾネット形式とし、梁下有効高 6.3m～最大 8.6m とします。日用雑貨・消費財などの高積みやラックの 4 段積みも可能となり、一般的な 5.5m の天井高に比べて保管効率が格段に向上します。さらに、同一敷地内には、約 300 坪の危険物倉庫を併設しており、様々なニーズに対応することが可能です。

なお、敷地の北東隣では、「プロロジス古河プロジェクト フェーズ 1」として、合計約 106,000 m²の敷地に 3 つの BTS 型物流施設「プロロジスパーク古河 1・2・3」が稼働中です。

■ 茨城県内のプロロジスパーク

プロロジスは、茨城県内では「プロロジスパーク古河 1・2・3」やマルチテナント型物流施設「プロロジスパーク常総」など 7 棟の物流施設を運営中であり、株式会社 ZOZO の専用(BTS 型)物流施設として「プロロジスパークつくば 3」を開発中です。

プロロジスは、今後もお客様の物流効率化のニーズにお応えすべく、物流施設の開発・運営を進めてまいります。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム
https://ma.prologis.co.jp/form_inquiry_media